

平成 30 年 2 月 27 日

松阪市議会

議 長 山 本 芳 敬 様

市民クラブ

楠谷 さゆり

視 察 報 告 書

下記の日程で、視察を行いました。ここに報告書を提出いたします。

記

日程	平成 30 年 2 月 23 日(金)
視察先及び 視察事項	筑波大学附属聴覚特別支援学校 歯科技工科 聴覚に障がいのある者が手に職をつけるために学ぶ 特別支援学校の内容調査
参加議員	楠谷さゆり、橘 大介
報告書作成	楠谷さゆり
対応	筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部専攻科歯科技工科 教師 福田靖江様

千葉県市川市国府台 2 丁目 2 -1

筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部専攻科歯科技工科

電話 047-373-8771 (代表)

FAX 047-373-8789



1. 筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部専攻科歯科技工科の概要

筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部専攻科歯科技工科は、1971年に東京教育大学附属聾学校高等部専攻科に創設された、聴覚障害に配慮した歯科技工士養成校である。修業年限は3年、1学年の定員10名の少人数教育を行っている。

授業全体の約70%が専門の実習であるが、社会人として有用な一般教養の授業も行われている。3年次には歯科技工士国家試験にほぼ100%合格しており、就職率・進学率も100%である。

様々な方法による情報保障およびきめ細やかな配慮により、聞こえない・聞こえにくい生徒が理解しやすい授業を行っているのも特徴と言える。

2. 視察の目的

歯科技工士は、入れ歯・歯の被せ物・歯の詰め物・歯の矯正装置などの作成や加工、修理を行う医療職で、聴覚に障害のある人が多く従事している。特別支援高校の生徒、あるいは普通高校の生徒で聴覚に障がいのある人が、将来的に自立して生活していける方法の一つとして、また、人の役に立てる手立てとして、プロフェッショナルでやり甲斐のある技術を習得する道があることを、聴覚障害のある高校生とその保護者に伝えるために現場を視察することを目的とした。



(生徒たちの作品)

3. 授業内容の見学

まず、1年生の講義を見学した。講師陣は、東京医科歯科大学の教員、手話と

映像を使って補助的に指導する教師、そしてパソコンを使用して文字化している職員と3名体制である。生徒は60デシベル以下が聞こえにくい（会話レベルはわからない）ので、補聴器も使用しているが、指導者は生徒とのコミュニケーションを確かめるように、会話をやり取りしながら、特に専門用語については単語ひとつずつの意味を確認しながら丁寧に進めている。



次に2年生の実習の様子を見学させてもらった。グレージング（義歯の最後の仕上げ）をやっているところで、3名がひと時も顔も上げず集中していた。実技指導の教員が一人で指導。




4. 卒業後の進路について

就職率・進学率 100%で、いずれにしても専門分野に進んでいる。就職は、3年次に歯科技工士国家試験にほぼ全員が合格しており、卒業時にはほとんどが歯科技巧関係に進路を決めている。進学は鶴見大学歯学部附属病院歯科技工研究科などに進み、さらに高度の技術を身につけている。




5. アビリンピックでの成績

障害者の世界大会「アビリンピック」が4年に一度開催されており、歯科技術競技で、金賞を受賞している卒業生もある。現在もその経験を全国で講演している。



第37回 全国障害者技能競技大会
全国アビリンピック



とちぎ
障害者アビリンピック
2017

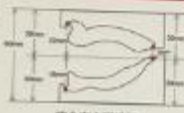
期 日：2017年11月17日(金)～19(日) 開催地：栃木県 青葉高等学校

歯科技工 Dental Techniques


■ 内容

今回の競技では、歯を全て失った人が使用する「全部床義歯」(総入れ歯)の原型である蠟義歯を製作します。患者さん固有の噛み合わせを記録する際に使用する咬合床を基準通り製作することから始まり、石膏を用いて模型を咬合器(人の顎の動きを再現できる器具)に基準に従って装着します。正しい位置で装着することによって、顎の動きの再現が可能となります。

続いて既製の人工歯を並べていきます。前歯は見た目に大きく関係してくるので、左右のバランスを確認し、前後の奥行きを考え自然感を出しながら美しく並べます。この時、顎の運動を邪魔しないように注意して作業します。奥歯はしっかりと噛み合わせるのとは勿論ですが、顎の運動を邪魔しないように並べていき、最後は歯肉部分をワックス(蠟)で形成して仕上げます。



咬合床の基準値





咬合器装着



人工歯排列



■ 見どころ


人工歯の選択は、顎の大きさや性別、顔の形、患者さんの好みなどによって、大きさや形態、色調が決められますが、本競技においては指定された人工歯を使用します。前歯においては、患者さんの情報(性別および年齢など)を考慮しながら審美的に美しく並べられているか、臼歯においては義歯が安定する位置にあって顎の動きに対してスムーズな動きができるように並べられているか、また歯肉の形態が自然で機能的に形成されているかが本競技のポイントとなります。


■ 選手名

順位	都道府県	氏名	コメント
1	北海道	吉田 哲也	初心忘れずに挑戦してベストを尽くします。
2	栃木県	成藤 茂治	開催地のプライドをかけてガンバります。
3	千葉県	中川 直樹	全力尽くすのみです。
4	東京都	吉田 真己	練習の成果を出せるように頑張ります。
5	石川県	藤井 学	ほぼ未経験な競技ですが、それでも、人生の糧になるので挑戦させていただきます。がんばります!



第37回 全国障害者技能競技大会
全国アビリンピック



とちぎ
障害者アビリンピック
2017



6. 所感

松阪市では、過去に存在したろう学校がなくなり、松阪の生徒は三重県立聾学校(津市)などに通っており、三重県からの補助も支給されている。歯科技工士という

専門職はニーズが高いこと、挑戦意欲があれば海外でも働けるプロフェッショナルな仕事であることから、聴覚に障がいのある高校生には選択肢の一つとなることを期待し、ろう学校などに情報を伝えていきたいと思う。

この歯科技工科には寄宿舎も完備しており、近隣以外の生徒も安心して学ぶことができる。また、学校行事として、宿泊研修、見学実習、見学旅行、職場実習なども充実しており、聴覚障がい者に配慮したカリキュラムは、保護者も安心できるのではないかとと思われる。さらに、一生の友人を作れる場所になればと願うものである。

障がいのある人でも、ものづくりが好きなら、楽しんでできる仕事ではないだろうか。一人でも多くの障がい者が自立して生活できるよう、皆で支えていきたいものである。



(寄宿舎食堂)